



宣伝カーも、ポスターも 千チケット普及を後押し

♪開幕まで
あと**25**日

1人ひとりのがんばりで、最後の峰を越えよう

先週から、長崎祭典開催を市民に知らせる宣伝カーが走り始めました。大音楽会会場のアリーナかぶとがに周辺では、バス停や、交差点で「何だろう」といった顔で注目する人も目立ちました。この日は並行してポスター貼りにも取り組み、会場近くのお店を中心に10数軒を回り、合計13枚を張り出しました。(写真)

「4000人が集まる大音楽会です」と、チラシで説明しながら「ポスターを張らせてください」とお願いし、当日の参加を呼びかけます。「エー、池辺さんも来るんですか」「すごい内容ですね」と人気は上々。



断られたのはわずか2軒だけでした。「何事もやってみるもんだね」と、会場周辺をチケット持ってまわろうという計画も提案されていました。



これまでのがんばりを 「ぜったい、実らせたい！」

- ◆「帰りが大変だし、夜だから」と参加を渋る人も多かったことから、急ぎょマイクロバス(36人分)を用意。「マイクロバスが出ます」と駐車場所を連絡したら、次々に来てもらえることになりました。バスを用意して、まだ10日も立たないのに、予約でいっぱいになりました。マイクロバスの増便を準備中です。(マイクロのお世話してくれる人いませんか?)【諫早】
- ◆5人に、3~5枚預けているんですが、そのうち1人が3枚売ってくれました。他の人も連絡してみたら、まだそのままの人も2人いましたので、「まだ一カ月あるから、お願いね」と再度頼んだら、「わかった。私は行くから」と言ってくれました。「やっぱり一週間に一度は、連絡しないといけないですね、お願いしたんだから。預ければなしでは失礼だし。気持ちで訴えないと広げてもらえないですね」「ここまでがんばってきたから、絶対に実らせたいですよ」【長崎】
- ◆ホームページで初めて知りました。「長崎でもすごいイベントがある」と思って電話しました。せっかく行くんですから、一泊して2日間とも行きます。一枚ずつお願いします。予約席は、後ろの方しかないことは分かっていますが。【五島市より】



全日本合唱連盟理事長

浅井敬壹先生からメッセージ

原爆投下から65年の節目に、長崎の地で日本のうたごえ祭典が開催されますこと、何よりも意義深く思います。今日まで、たゆまず平和を希求し続け、歌い継がれてきた「うたごえ」の活動に、心から敬意を表します。長崎祭典にお招きいただき、その重みと、共に音楽させていただく幸せをかみしめております。

私は、2歳から8歳まで、旧満州(現・吉林省)に居り、敗戦後九死に一生を得て京都に引き上げてきました。自分の家にとどり着いたとき、広島にいた親せき5人全員が原爆で亡くなったことを聞かされました。何がどうあろうと、戦争だけは絶対におこしてはならないと、今も、私は思い続けています。

世界中が歌の輪で結ばれる時、地球は必ず平和になると信じています。歌は、何の強制力も持ちませんが、でも、本当に優しく、あたたかく、そして強いものだからです。この祭典が世界を結ぶ平和の架け橋になることを願っています。

「平和の旅へ」から、「一本のペンで」へ 「核廃絶願う、世界の運動への大きな励ましです」 被爆者・大塚一敏さん、「長崎祭典」への期待語る

長崎の被爆者・大塚一敏さんから、自らの体験と高校生一万人署名活動にみられる核兵器廃絶運動の未来への展望、「日本のうたごえ祭典 in 長崎」への期待を語っていただきました。



大塚一敏さん

購入したチケットに「平和への想いつなぐ 心/叫び/歌」と書かれていて、ふと考えました。人類が、まだ文字を持たなかった頃の心の叫び、訴えが、ことばと歌を生み出し、歌が仲間の心を結び、共通の敵と向かい合う思想となったこと。歴史をへて、「核兵器のない世界をつくろう」ということばをもつ歌にまで育ったこと。一枚のチケットがささやいているように思えます。

毎年、8月9日の11時2分には、自らが被爆した新興善小学校の塀があった場所に立ち、いっしょに蟬取りをして遊んだ親友を想って黙とうをささげます。

被爆者として渡辺千恵子さんとは長い交流があったのですが、彼女は「原水爆禁止運動がなかったら、私はこうして生きていなかったでしょう」といつも語っていました。その運動の中から「平和の旅へ」が生まれました。しかし、千恵子さんはそれから8年しか生きられませんでした。

それから5年、インド、パキスタンの核実験を契機に、市民の募金で国連に「高校生平和大使」が送られ、高校生一万人署名活動が始まったと思います。被爆者の高齢者が進むなかで、被爆体験の継承に取り組む高校生のさわやかさは、長崎市民を大きく励ましてきました。「一本のペンで」は、そんな高校生の詩がもとで生まれたと聞いています。

ここでは、「微力だけれど、無力ではない」「小さな力はやがて大きな力になる」と、草の根運動の基本が歌われていると感じています。自分の考えで行動するユニークな発想には未来があり、無限の可能性を秘めており、頼もしいかぎりです。被爆の身をさらしながら、核兵器廃絶を願い続け、それをさえぎる者と対峙した人々の姿と重なり、歴史の素晴らしさを感じます。

今回、被爆地長崎でのうたごえ祭典の最後に、「平和の旅へ」から「一本のペンで」へと続く大合唱で締めくくられることは、本当にすごいことです。それは、核兵器廃絶を現実のものにと願う、世界の草の根運動に大きな励ましとなるでしょう。

「一本のペンで」合唱団 9月5日



お知らせ

▼街頭宣伝は24日(金)
午後4時・鉄橋です。

▼合唱の練習日

- 23日(木)
グレートジャーニー・平和の旅へ
- 24日(金)
男声合同・働く者のうたごえ
- 25日(土)
「あの子」(山里) ・女性合同
- 26日(火)
青年のうたごえ
- 28日
干潟の海の詩(ガスホール)
- 30日(木)
悪魔の飽食2曲

10月3日(日)
浅井先生練習会

ゲスト・ナターシャ・グジーさん

歌とバンドウーラ

演奏曲が決まりました

◆15日・アリックホール「平和への想いつなぐ」音楽会

- ① ♪いつも何度でも 作詞/覚和歌子 作曲/木村弓
- ② ♪防人の詩 作詞・作曲/さだまさし

16日・アリーナかぶとがに「いのちの歌 世界へ」大音楽会

- ① ♪慈 愛 作曲/渡辺俊幸(ショートバージョン)